

特定非営利活動法人 東海自然学園
平成 29 年度 総会議案書

日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）13 時 30 分
会場：神田荘

議事次第

- 1、 開会
- 2、 代表理事挨拶
- 3、 議長選任
- 4、 審議事項
 - 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告の件
 - 第 2 号議案 平成 28 年度収支決算報告の件
 - 第 3 号議案 平成 29 年度事業計画の件
 - 第 4 号議案 平成 29 年度収支予算計画の件
 - 第 5 号議案 平成 29 年度役員選任の件
- 5、 質疑及び討論・採決
- 6、 閉会

<第1号議案>

平成28年度事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

【平成28年度方針】

各部署で積極的に新風を吹き込み、新しい事への挑戦を試みる。また、同時にこれまでに積み上げたものをうまく伝承する。

- 新スタッフが6名加わり、新しい視点からの意見や提案が増え、各活動が活気づいた。
- 経験年数の違うスタッフがチームを組み、各活動を担当することで、これまでの経緯や経験から得たものを伝承。必要な時には改めて議論し直す時間をつくり、土台強化を図った。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

- ◆ 高等科、基礎科、専修科ともに事故やトラブルなどなく1年間の全講座を実施することができた。昨年度の事故から安全対策、緊急対応の仕方を見直し、スタッフ間での確認、受講生への声かけなどを強化したことが、今年度の無事故に繋がったと思われる。

[※新たな安全対策として下記を実施した]

- 緊急連絡カードの携帯を徹底
- 下見時の安全チェック表
- スタッフの研修実施 など

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- 定員いっぱいの花組(35名)、星組(35名)で講座をスタートした。
- 合宿・学園祭・修学旅行を含め、全30回の講座を実施した。

◇実施日

- ・ 花組 第1・第3金曜日
- ・ 星組 第2・第4金曜日

◇担当

- ・ 花組 スタッフ4名、アシスタント2名
- ・ 星組 スタッフ4名、アシスタント2名

◇修了者・皆勤者数

- ・ 花組 33名 ◎1年間皆勤6名
- ・ 星組 27名 ◎1年間皆勤3名

◇資格取得者(自然観察アドバイザー)

- ・ 花組(13名) ・ 星組(4名)

◇内容報告

- ・ 休学者、退学者が多かったが、それぞれ個々の事情によるものだった。
- ・ 合宿は「おんたけ休暇村」での実施が可能となり、2年ぶりであったため2度の下見を重ねて実施し、当日はスケジュール通りに進行することができた。
- ・ 合宿リーダーミーティングにて委員会や学園祭について疑問や不安の声が多くあった為、学園の趣旨や、自らの経験などを伝えながらサポート。その後は、それぞれのリーダーを中心にまとめ、様々なアイデアの中で目的を達成した。
- ・ 「キノコ」の講座は、夏の方がキノコは多いとの講師の助言があり10月から9月へ、「干潟の野鳥」の講座は、より野鳥の種類が多い冬の時期へ変更した。
- ・ 「自然観察入門」講師変更
→長谷川先生より岡田先生に引き継がれ、変わらぬ内容で講座を引き受けていただいた。

【企画委員会】

- ・ **花組** 〈日帰り企画〉 9/9（金） 東山動植物園にて講義&観察・懇親会 （29名参加）
〈修学旅行〉 3/9・10 越前和紙の里、一乗谷朝倉氏遺跡、うるしの里会館等（29名参加）
- ・ **星組** 〈日帰り企画〉 9/2（金） 海上の森の観察会・懇親会 （22名参加）
〈修学旅行〉 3/9・10 奈良井宿、おんたけ休暇村、開田高原（スノーシュー）等（24名参加）

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個人の観察記録を立派な冊子に仕上げ、報告会にて発表した。

【学園祭委員会】

両クラスともに委員会を中心にクラス全体で取り組み、ステージ発表、展示、ワークショップに挑戦した。ステージ発表では班ごとに歌、クイズ、劇、研究発表など、様々な切り口で自然をテーマにした発表があり、学園祭を大いに盛り上げた。

●実施日：12月7日（水）・8日（木）

●会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター

- ・ **花組** 〈ステージ〉『ビックリポン！を探そう』学びや観察でビックリしたことを発表。
〈展示〉『私達の植物スケッチとクラフト作品』講座時の作品や個々の作品を展示。
〈ワークショップ〉『バードコールと松かさのクリスマスツリー』
- ・ **星組** 〈ステージ〉『自然の不思議を見つけよう！』驚いたことや納得したこと等を発表。
〈展示〉『植物アート初めの一步』自然工作の講座で作った作品や個々の作品を展示。
〈ワークショップ〉『どんぐりワールド』トトロなど、どんぐりを使った自然工作。

■高等科

●27名の受講生でスタートし合宿・学園祭・修学旅行を含めて全30回の講座を実施した。

◇実施日 火曜日

◇担当 スタッフ5名

◇修了者数

・ 26名 ◎2年間皆勤者（1名） ◎1年間皆勤者（3名）

◇資格取得（自然観察上級アドバイザー）

・ 11名

◇実施内容

- ・ 新しい合宿地だったが特に大きな問題などなく実施することができた。（評価も良好）
- ・ これまでの受講生の声や講師・スタッフからの提案により下記の講座を追加、変更した。
 - ①「合宿」の宿泊先とフィールドの変更
→より安全に自然観察が出来る場所を講師に相談し下記に変更した。
〔フィールド〕カクレハ高原・白樺自然林 〔宿泊先〕秋神温泉
 - ②「身近な哺乳類」フィールドと講師の変更
→以前のフィールドが遠く、負担が大きかったため鳳来寺自然科学博物館に変更し、講師は博物館館長。
 - ③「森林保全を学ぶ②」1日でやっていた内容を2日間に拡大
→半日だった真弓先生の講座を1日講座に、森林公園での整備体験も1日講座にした。
 - ④「水辺の生きもの」フィールドの変更
→講師からの助言により香流川から庄内川での実習に変更した。
 - ⑤「森林保全を学ぶ～森の健康診断～」講師・フィールドの変更
- ・ 委員会はその委員会も熱心に取り組み、それぞれの目的を達成することが出来た。

【企画委員会】

- ・（日帰り企画）8/30（水）「三重県民の森」（26名参加）
- ・（修学旅行）3/14・15 奈良春日山、飛鳥方面 他（25名参加）

【観察記録委員会】

- ・ 委員会が中心となり全員の観察記録を冊子にまとめ完成させた。

【学園祭委員会】

第5回学園祭のテーマ「自然の不思議を伝えよう！」を決定し、委員会メンバーを中

心に盛り上げた。

- 実施日：12月7日（水）・8日（木）
- 会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター
- ・〈ステージ〉『センスオブワンダーを育もう』歌やクイズなどを入れながら班ごとに発表。
- ・〈展示〉『自然の不思議を伝えよう』班ごとに不思議だと思ったことをテーマに展示。
- ・〈ワークショップ〉『木工クラフト・クリスマス工作』自然素材でサンタヤツリーづくり。

■カリキュラム選択科

今年度は下記の科目に選択科参加があった。

- ・「身近な野草」義朝の森 1名
- ・「湿地を知る」北山湿地 1名
- ・「植物を知る②」海上の森 1名
- ・「植物を知る③」鬼崎海岸 1名
- ・「地質めぐり①」名古屋城 1名
- ・「インタープリテーション①」東山動物園 1名
- ・「中部の植物観察①」森林公園 3名
- ・「身近な哺乳類」鳳来寺山 2名
- ・「どんぐりをとことん極める」豊田市自然観察の森 2名
- ・「クラフトを楽しむ」犬山野外活動センター1名

■専修科

◇担当 3名

◇実施内容

- ・計画通り、合計6講座、11日の講座を開催した。（内宿泊講座は2回）
- ・講座内容は前年に比べ小幅な変更に留まったが、全講座定員を超える応募者があった。
- ・年間受講者は延べ、39名。内年間通期受講者は17名。
- ・平均欠席者は3名（欠席率：15%）、最大は7名（35%）と出席率が低かった。
- ・直前の欠席連絡が多く、補欠待機者への交代がうまく機能できなかった。
- ・受講生の確保と欠席者の低減が継続的な課題である。

広報

◇担当 5名（サポート隊3名）

サポート隊の方とのミーティングをし、活発で斬新な意見を頂くことができた。
また、「パンフレット配布作業」、「イオンの活動」、「環境デーなごや」などの現地活動にも積極的な参加で協力を得た。

◇実施内容

第14期生募集

- ・14期生募集パンフレットA4版/18,000部、A5版/3,000部を作成した。
（6月下旬と11月初旬の2回配布）
- ・元旦発行の中日新聞テレビ欄に14期生募集の広告を掲載。
- ・体験入学を1/13（26名参加）と2/13（37名参加）の2回開催した。2回目の体験を待たずに定員に達したが参加者は多かった。
- ・第14期生も早い時期（1/19）に定員70名に達し、10名の待機者を得ることができた。
- ・14期生が当学園に入学したきっかけの内訳は [●紹介：27名] [●中日新聞広告：12名] [●図書館：6名] [●図書館以外の施設でパンフレットを見て：15名] [●ホームページ：6名] [●不明：4名] となり、紹介での入学が増えていることがわかった。

学園の広報活動

- ・中日新聞行催事案内に天白公園観察会2回、特別講演が掲載された。
- ・自然保護協会「ネイチャーナビ」に天白公園観察会のお知らせなど4回掲載された。
- ・中日新聞“ひと彩々”に記事を投稿し横井代表理事が取材を受け、「絵通し見える奥深し

さ」が大きく写真付きで掲載された。

- ・ ホームページは月1回のブログ更新を目標に行った。
- ・ イオン・黄色いレシート活動にイオン・ナゴヤドーム前店とマックスバリュ・有松駅前店に登録。ナゴヤドーム前店では年10回の活動に参加し、学園の知名度アップのため店頭にて声掛けを行った。会員によるレシート提供のご協力もあり、レシート合計金額の1%の寄付として商品券71,500円分を頂き、ルーペ40個ほか文房具を購入した。
- ・ 「環境デーなごや」に参加。アンケートを配布、記入、回収。サポート隊の協力を得ながらパンフレットを多数配布した。
- ・ 「つながるフェスタ」に参加し、名古屋・一宮・刈谷の3会場で学園PRをした。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

◇担当 6名

◇科員 32名

◇目的

自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。

◇今年度の年間目標

- ・ 目標① 数や種類を多くこなすことより「伝え方」に力を入れたワークショップを目指す
- ・ 目標② 自分たちの技術向上や興味を探究する時間を設け、新しい作品作りに繋げる

◇実施内容

- ・ 定例活動・・・18回（第2・第4水曜日）

◇年間活動実績

参加した受託事業や行事

- ・ 戸田川緑地「とがだわまつり」（5/4水～5/5木）
- ・ 北生涯学習センター受託事業「アルミ缶アート」（6/4土）
- ・ 環境デーなごや「森の宝探し in 小幡緑地」（6/25土）
- ・ 大曾根商店街七夕まつり（7/29金～7/31日）
- ・ 戸田川「秋まつり」（10/8土～10/10月）
- ・ 熱田区トワイライト指導者研修会（10/28金）
- ・ 人と自然の国際フォーラム（10/30日）*総務・渉外科への協力
- ・ なごや環境大学「鬼おろし作り講座」（12/14・1/25・2/8・2/22）
- ・ 船方小学校トワイライト（12/10土）
- ・ 名古屋市科学館ワークショップ（3/26日）

実施した研修

- ・ 日本赤十字社 救急法講習会
- ・ 「竹の工作」勉強会

◇目標の達成度

●目標① 数や種類を多くこなすことより「伝え方」に力を入れたワークショップを目指す

- ・ 工作指導に追われ、「自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。」という本来の目的意識が少し希薄になっていた為、今年度は「伝える」に力を入れることを目的とした。
- ・ 「環境デーなごや」の企画ではクラフトから離れ、森を歩きながら自然の宝を探すという自然体験プログラムを企画、実践することができた。親子でマツボックリの赤ちゃんを観察したり、ダンゴムシの足を数えたりする中で、感激や納得の声が上がり、自然への興味を深めてもらうことができたと感じられた。

- また、名古屋市科学館でのワークショップでも工作の前にミニ講座を実施。クイズ形式で素材について特徴を説明し、より興味をもってもらえるような企画作りができた。
※上記をまとめ、目標①は達成できた。

●**目標② 自分たちの技術向上や興味を探究する時間を設け、新しい作品作りに繋げる**

- 新しい作品作りとして今年度一番大きな取り組みは、なごや環境大学（全4回講座）での「竹製鬼おろしづくり」であり、これを実施するにあたり、自分たちの技術向上（竹の加工法や保存法など）や新たな学びを得ることができた。
- 技術向上のための研修会などに時間をつくることは困難だったが、毎回の個々の新作発表は継続しており、お互いの作品に刺激を受けながら、今年度もいくつかの新作を作り上げた。（ヒンメリ、パタパタふくろう、シーソーサンタなど）
- 年度末には竹工作が得意なメンバーに指導を受け、自分のための作品作りに挑戦することができた。

※上記をまとめ目標②は、新しい作品作りへの意欲、挑戦という意味では達成感はあるが、技術向上、アイデア拡大のために、もっと外部研修や見学会などの時間が必要であると、引き続き来年度の目標とする。

◇**今年度の前進面**

- 昨年度事故を経験し、メンバーの救急法研修や道具の扱い注意、机上の整理整頓などにより無事故での活動ができた。
- 年間予定以外にも様々な依頼をいただき、年間を通して沢山のワークショップを出展することができた。
- 新しい作品として「ヒンメリ」「鬼おろし」「シーソーサンタ」「イモムシ」「カバさん」などが加わった。（ヒョウタンを使った新作も研究中）

◇**今年度の問題点**

- これまでに採取・保存してあった竹材、木材を使用してしまい、材料（特に竹）の素材在庫がなくなってしまった。保管場所がないため、今年度も竹を確保しておらず、来年度は竹を素材とする作品作りができない状況となってしまった。
- 一昨年度より「倉庫・作業場」を探しているが見つからない。空き家の使用に声を掛けていただいたが安全面と距離面から、残念ながら見送ることとなった。引き続き「倉庫・作業場」を探す、会場費（生涯学習センター使用料）の節約も考えながら運営する必要がある。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

レギュラーコース4年卒業制を導入し、「レギュラーコース（在籍4年以下）」と「キャリアコース（在籍5年以上）」に分割してそれぞれに運営。

レギュラーコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 3名

◇人数 44名

◇活動内容

- 昨年同様4班集体で運用し、座学7回、フィールド12回、キャリアコースとの合同懇親会1回を行った
- フィールドは海上の森の春夏秋冬を観察した。その他、庄内緑地、木曾福島城山、おがざき自然体験の森、京都府立植物園、豊田市自然観察の森、定光寺、勅使池、などで行った。

キャリアコース

- ◇実施日 原則として第2・4月曜日
- ◇担当 2人
- ◇人数 26名 (※1：新規参加8名、※2：途中退会2名)
- ◇実施内容

- 年間活動日数：26日
 - 【内訳】◎フィールド [13日] ◎座学 [合同1回] ◎天白公園観察会 (下見含む) [8日] ◎受託講座 (下見、リハーサル含む) [4日]
 - 【フィールド】◎赤目四十八滝 ◎木曾城山 ◎入笠山 ◎各務野自然遺産公園 ◎せせらぎ街道 ◎面の木園地 ◎山路の森 ◎菰野富士 ◎金華山等
- 一般対象天白公園自然観察会 (天白公園整備クラブと共催) を4回実施。
- 基礎科の講座を受託
 - ・テーマ「冬の森の観察」 ・場所：築水の森、春日井少年自然の家
 - ・実施日：2/10 (星組)、2/17 (花組)
- キャリアコース4年卒業制を提案し承認されたため、来年度より4年卒業制とする。

◇総括

- ・メンバーが増え、参加者がばらつく中で何とか計画通りに活動できた。
- ・次年度以降の人数の増加に対する抜本的な対応策として、キャリアコースに4年卒業制の導入を提案し、学園の方針として採用された。

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

- ◇担当 9名
- ◇実施内容

- 昨年度の実績としてイオン環境財団より50万円の助成を受け、里山整備研修などを森林公園にて実施した。道具の購入や講師を招いての講習会を開催。(※88,422円返金)
- 昨年度に引き続き、公益財団法人イオン環境財団の助成金に申請。「森林整備」の分野で選出され、森林公園整備科・瀬戸里山整備科の活動に37万円の助成を受けることが決定した。
- あいちコミュニティ財団助成先募集説明会に名古屋市内と知多市内の会場で2名が出席し、助成金(寄付金)についてのノウハウなどを学び、得た知識を共有した。
- 昨年度依頼を受け企画を進めていた「JAなごや」での新規事業は、残念ながら最低催行人数が集まらず実施見送りとなった。その原因を議論した結果、対象者への調査(年齢や目的など)不足だった可能性が挙げられ、より対象者に寄り添った企画作りが大切であることを学んだ。→目的地(フィールド)の設定、料金設定、回数設定、内容のレベルなど。
- 認定NPOについての正しい知識を得るため、5/17(火)名古屋市市民活動推進センターを訪問。認定NPOについて申請内容や必要事項などについての知識を習得した。その結果を理事会にて発表し、現時点で当学園が認定NPOを目指すのは困難であると結論が出された。
- 環境デーなごやの企画・実施
 - 初めて「クイズ」を企画。少しでも我々のブースに興味を持ってもらえるような仕組み作りをした。参加賞も用意したことで100名を超える方にパンフレットを手渡す事ができた。
 - 実施日 9月17日(土) 9時半～16時
 - 場所 久屋大通公園 エンジェル広場
 - 内容 ○木の実の展示 (環境教育科より借用)
○木の実クイズ (手作りの参加賞を100個作成)
○名刺やパンフレットの配布 (広報)

交流部

◇担 当 4名

【OB ツアーの実施】

- ・実施日 : 平成 28 年 8 月 29 日 (月)
- ・行 先 : 水木沢天然林
- ・講 師 : 楯 誠治、小谷宗司
- ・参加者 : OB (46名) +スタッフ 4名引率
- 当日は快晴に恵まれ怪我やトラブルなどなく実施することができた。

[参加者アンケートでも良い評価をいただいた]

- 水木沢天然林は初めて歩くという方も多く、距離的な面からも参加者から好評価を得た。
- チーム分け方法、車内クイズ、ビデオ鑑賞などの企画・運営内容も評価された。
- 日帰りのバス旅行では参加者間の交流が難しい(自己紹介してもバス内では顔が見えない)との声もあったが、「交流ができましたか」の問いに対し 37 名(46名中)が「交流できた」との答えだった。

【クラブについて】

- ・ 6/16 クラブ長会議を開催。各クラブ長、地域サークル代表と代表理事、事務局、担当スタッフ 1 名が参加し、クラブ活動運営についての連絡・確認をした。また、クラブ長が抱えている悩みや問題点なども把握できた。
- ・ 今年度よりクラブ登録後に無断欠席が 3 回以上続いた場合は退会したと判断して以後の連絡はしないこととして対応。
- ・ 毎年登録人員が増加するため、今後の課題として新規クラブの立ち上げが急務。

【各クラブの活動報告】

「野鳥クラブ」

○登録人員 30名 会費 1,000 円/年

○活動方針

- ・ 探鳥会を年に四回開催を計画する。
- ・ 内容は探鳥観察を中心とする企画に、植物を楽しむ散策を織り交ぜる。
- ・ 探鳥会には適宜案内人を依頼する。
- ・ 秋の学園祭にクラブとして出展する、そのための準備を夏ころから始める。
- ・ 懇親会を計画して会員の親睦・交流を深める。

○活動内容

5/15「藤前干潟」 11/9「日進市岩藤新池」 2/23「岡崎公園」 3/28「名城公園」

「写真クラブ」

○登録人員 59名 会費 1,000 円

○活動方針

- ・ 自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・ 活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

○活動内容

4/13「スイトピアセンター」 5/11「御在所岳」 5/20「写真教室」 6/24「パソコン操作」
7/20「伊吹山」 8/25「伊吹山撮影会勉強会」 10/12「ナディアパーク」
12/1「関鍛冶伝承館」 1/28～29(初の 1泊企画)「木祖村：雪灯りまつり」

「自然体験クラブ」

○登録人員 61名 会費 1,000 円

○活動方針

年 4 回の行事とし、5. 4. 3. 2 組の持ち回りで担当する。
また、基本の実施日を各季節の先頭月の第 3 木曜日とする。

○目標

様々な自然体験を通して自然に親しみ、会員相互の親睦を図り楽しむことを目標とする

○活動内容

6/30「針江生水の里・水島観察センター・マキノメタセコイヤー」 9/15「西村自然農園」

10/18「おおくら滝遊歩道」 3/3「知多佐布理池」

「地質クラブ」

○登録人員 67名 会費 1,000円

○活動方針

身近な自然の成り立ちを観察する。

○活動内容

6/28「岐阜県博物館の地質展示」 11/9 阿寺溪谷の濃飛流紋岩 1/27「八竜湿地周辺の地質」

3/29「岩村盆地の濃飛流紋岩と花岡岩接点」

「植物クラブ」

○登録人員 64名 会費 1,000円

○活動方針

「とにかく楽しく、少し知的な好奇心をくすぐる観察会」を企画する。

○活動内容

5/18「八竜湿地」 6/6「木曾川河川敷」 7/6「岐阜薬草園巡り」 8/28「木曾福島城山」

10/30「東山植物園」 3/15「東山植物園」

「植物アートクラブ」

○登録人員 13名 会費 2,000円

○活動方針

植物アートクラブは、自然界の植物、生き物、静物、風景等を自分なりに表現し作画意欲を高め、心にゆとりを持つことにより豊かな人間性を求めることをモットにし、端先生を講師迎え活動しました。

毎月一回の活動を基本にし、学園祭では日頃の成果を発表しました。

○目標

月ごとの課題に取り組み、それぞれのレベルアップを目指す。

○活動内容

4月「デッサンの手順」 5月「野外でのスケッチ」 6月「デッサンの工夫」

7月「塗り重ね」 8月「ぼかし」 9月「ぼかし+重ね塗り」 10月「塗り残して白さを描く」 11月「筆のタッチ」 12月「立体感を出す」 1月「奥行き感を出す」

2月「花びらを描く」 3月「発表会」

「ふふふキラキラクラブ」

○登録人員 50名 会費 1,000円

○活動方針

活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

○目標

・「森・里・川・町・海」に関連して、食を通して楽しみ相互交流をはかる。

・発表会：年に一回、会員の「ふふふ」結果を、自分だけで独占するのではなく、楽しみを会員相互に分ちあう。

○活動内容

7/2「佐久島散策とBBQでたべまくり」 11/20「歴史の町散策といも堀体験」

2/25「早春の里山散策と日本昭和村」

「自然句詠クラブ」

○登録人員 20名 会費 1,000円

○活動方針・目標

・自然を愛で、楽しみながら5・7・5の俳句を作句する、

・日本語の豊かさ、奥深さを研究し、俳句の面白みを深める、

・メンバーとの親睦を深め、エンジョイする、

・健康促進は勿論のこと、脳・感性の活性化を図る、

○活動内容

①月1回、句会を開催（年2～3回、講師を招聘）、

- ②年4回、吟行を開催、
- ③東海自然学園祭に参加・出展、
- ④年一回、句集を作成・発行、

「湿地クラブ」

○登録人員 37名 会費 1,000円

○活動目標

- ・森林公園植物園内の湿地（東海丘陵要素の植物・昆虫・鳥の観察）
- ・その他活動（高層・中間・低層各湿原の植物・昆虫・鳥の観察）

○活動内容

5/10「森林公園」 6/10「ひるがの湿地植物園」 7/23「森林公園」
 8/24「豊田市自然観察の森」 9/10「森林公園」 9/18「葦毛湿原」
 10/8「御池沼沢植物群落」 11/5「森林公園」 1/21「森林公園植物園」

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

平成28年度は整備地（8.2ha）の内B地区の森林整備活動を実践した。

◇活動日 第2・第4木曜日

◇人数 36名

◇活動内容

- ・特記するような事故はなかった。
- ・今年度初回の活動日（4月14日）に日赤による救急法講習を受講した。
- ・盛夏（8月25日）に雑木林研究会の真弓浩二講師による「里山保全の意義」についての講演会開催。
- ・除伐・希少植物の保護・下草除去・枯葉、落葉整備・ロープワークの学習・観察会・安全作業マニュアルの徹底

◇年間活動日

- ・13日（延べ320名）

活動予定：24回の内、中止＝11回（雨天＝8回、その他＝3回）

■瀬戸里山整備科

平成28年度は、整備地1.5haの内、主に里山部分へ竹が侵入した部分で、里山回復を目指して、竹皆伐、枯木、常緑樹除伐を行った。

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇登録者 21名（23名でスタートしたが、都合により2名が退会された。）

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇年間活動日 12日（のべ167名）

◇活動内容

- ① 竹藪部分の新竹の除伐を行った。
- ② 竹の侵入している里山部分の竹の皆伐途中であり、常緑樹の除伐を行った。
- ③ イオン環境財団へ助成金の申請を行った。

⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

＜第2号議案＞ 平成28年度収支決算報告

平成28年度(第10期)活動計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)			備 考
I 経常収益				
1 受取会費				
正会員受取入会金	0			
正会員受取会費	145,000			年会費
利用会員受取会費	1,155,000	1,300,000		年会費
2 受取寄付金				
受取寄付金	422,398	422,398		あいおい損保(28万円)、個人
3 受取助成金				
受取助成金	411,578	411,578		
4 事業収益				
自然活動リーダー養成講座事業収益	9,632,230			受講料、参加費等
普及啓発事業収益	436,633			受託料等
調査研究事業収益	0			
政策についての企画提案事業収益	52,853			
自然環境保全事業収益	0			
その他目的達成するための事業収益	0	10,121,716		
5 その他収益				
受取利息	703			
雑収入	0	703		
経常収益計			12,256,395	
II 経常費用				
1 事業費				
(1) 人件費				
給料手当	3,564,200			
通勤手当	133,700			
法定福利費	561,409			
人件費計	4,259,309			
(2) その他経費				
講師謝礼金	1,555,000			
教材費	275,520			
会場費	402,876			
広報費	436,074			新聞広告の掲載費
リーフレット代	317,520			パンフレット(21,000部)
講師交通費	97,820			
スタッフ交通費	1,626,920			
活動交通費(バス代)	124,046			
消耗品費	780,475			
家賃	600,000			事務所家賃
接待交際費	11,260			手土産他
水道光熱費	107,382			
コピー機維持費	238,029			
保険料	388,239			NPO活動総合保険
通信運搬費	613,765			郵送料、通信費
研修費	3,000			
雑費	15,581			
その他経費計	7,593,507			
事業費計		11,852,816		
2 管理費				
(1) 人件費				
給料手当	184,824			会計担当給与
人件費計	184,824			
(2) その他経費				
セキュリティ料	106,000			
事務用品費	24,798			
租税公課	600			
支払手数料	78,964			税理士報酬等
雑費	3,909			
その他経費計	214,271			
管理費計		399,095		
経常費用計			12,251,911	
当期経常増減額			4,484	
III 経常外収益			0	
IV 経常外費用			0	
当期正味財産増減額			4,484	
前期正味財産額			7,716,457	
次期繰越財産額			7,720,941	

平成28年度(第10期)貸借対照表

平成29年3月31日現在
特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	18,845,817		
前払金	589,452		
未収入金	20,000		
流動資産合計		19,455,269	
2 固定資産			
敷金	100,000		
固定資産合計		100,000	
資産合計			19,555,269
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	495,466		
前受金	11,329,000		
預り金	9,862		
流動負債合計		11,834,328	
2 固定負債			
借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			11,834,328
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		7,716,457	
当期正味財産額		4,484	
正味財産合計			7,720,941
負債及び正味財産合計			19,555,269

平成28年度(第10期)財産目録

平成29年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	
現金 現金手元有高	108,100
普通預金 三菱東京UFJ銀行植田支店	9,195,553
普通預金 ゆうちょ銀行	7,538,966
定期預金 三菱東京UFJ銀行植田支店	2,003,198
前払費用 次年度会場費等	589,452
未収入金	20,000
流動資産合計	19,455,269
2 固定資産	
敷金 事務所賃借敷金	100,000
固定資産合計	100,000
資産合計	19,555,269
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金 3月分給与・社会保険料・交通費等 講師謝礼金等	430,006 65,460
前受金 次年度分受講料、年会費、助成金	11,329,000
預り金 源泉所得税、社会保険料	9,862
流動負債合計	11,834,328
2 固定負債	
借入金	0
固定負債合計	0
負債合計	11,834,328
正味財産合計	7,720,941

<第3号議案>

平成29年度事業計画

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

【平成29年度方針】

『心をひとつに、新たな挑戦！！』

スタッフの人数が30名となり、これまで以上にスタッフ間の連携を高め、各担当部署にて新しい挑戦で活動を広げながら、学園の運営を盛り上げる。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

- ◆ 各リーダーの変更はなく、前年度の経験を活かし、より安全に円滑に講座を運営し、講座内容の充実にも努める。

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・高等科へのアピールを工夫し、進学率を高める。

◇担当 10名 (+アシスタント2名)

◇人数 全70名 (2クラス)

◇実施日 年間30日間 (隔週火曜日)

◇計画内容

- ・年間カリキュラムの運営・進行・安全管理。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組み。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。

◇担当 4名

◇人数 27名

◇実施日 金曜日 (不定期)

◇計画内容

- ・年間30日間のカリキュラムの実施。
- ・学園祭に向けて、クラスの取り組みを支援するとともに基礎科への支援。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■カリキュラム選択科

- ・高等科受講生を含め40名を最大人数とし、それ以上の希望がある場合は抽選とする。

◇人数 17名

■専修科

- ・大幅に見直した年間カリキュラムを安全最優先で計画通り運営する。また次年度に向けてのカリキュラムの見直しを進める。

◇担当 3名

- ◇定員 20名（一部17名）
- ◇実施日 不定期
- ◇実施内容 年間7講座（前年比+1講座）、12日（前年比+1日）

<カリキュラム>

- ①白山信仰の里、石徹白を観る・・・・・・・・・・・・・・・・・・1泊2日
- ②乗鞍&千石園地で学ぶ「高山・亜高山植物」・・・・・・・・・・1泊2日
- ③クモ&トンボの不思議な生態・・・・・・・・・・・・・・・・・・全2回
- ④東海地区の湿地の成立ちと植生・・・・・・・・・・・・・・・・・・全2回
- ⑤東海地区の2つの極相林：ブナ林とシイ・カシ林を訪ねる・・・・全2回
- ⑥七宗地質巡り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全1回
- ⑦シダ入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全1回

広報

- ◇担当 4名
- ◇方針 “心をひとつに新たな挑戦”～積極的に新しい広報策を模索し、実施する。

◇目標

- ① 様々な方法で楽しみながら広報活動を実施することにより、第15期生72名の確保につなげる。
- ② サポート隊と連携し、多くの人の手で広く東海自然学園をPRする。

◇計画内容

- ① 募集パンフレットの発注を早め、設置場所を見直し、パンフレットの効果を高める。
- ② 15期生早期申込者へのフォロー。
- ③ 体験入学2回実施。
- ④ イオン・イエローシートキャンペーン活動に登録参加。
- ⑤ ホームページのブログとお知らせ欄を随時更新する。（最低でも1ヶ月に1回の更新）
- ③ メディアに投稿、取材依頼等積極的に行う。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担当 4名
- ◇人数 36名
- ◇方針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。

◇今年度の目標

- ・目標① 新たな技術やアイデアを生み出すため、講習会や見学会などの時間をつくる。
- ・目標② 作品作りの幅を広げるため、材料（素材）の確保、保存に力を入れる。
- ・目標③ 過去の作品を他の方に見てもらえるような場を設ける。
- ・目標④ 作業場、資材置き場となる会場を得る。

◇計画内容

定例活動は毎月2回（第2、第4水曜日）とし、その他下記の活動を計画している。

日にち	行事名	場所	主な内容	対象(人数)
5/27(土)	身近な自然観察会	天白公園	自然観察&体験	小3以上20名
6/25(日)	科学館ワークショップ	名古屋市科学館	ミニ講座&工作	要検討

7/28(金)	大曽根商店街七夕まつり	大曽根商店街 (大曽根駅すぐ)	数種類の自然工 作ワークショップ (野外ブース)	1日平均
7/29(土)				70名～100名
7/30(日)				(天候次第)
10/7(土)	戸田川緑地『秋まつり』	戸田川緑地 (名古屋市港区)	数種類の自然工 作ワークショップ (野外ブース)	1日平均
10/8(日)				70名～100名
10/9(月)				(天候次第)
10月～3月 (全4回)	なごや環境大学	—	—	—
11/16・17	学園祭	モリコロパーク	展示・ワークショップ	—
12/9(土)	船方小学校トワイライト	船方小学校	自然工作	30～40名

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、それぞれのコースにて学習・研究・実践を行う。

レギュラーコース

- ◇担当 3名
- ◇実施日 第2・4月曜日
- ◇人数 33名
- ◇活動内容

- 今年度は新入会員が少なく会員数は33名となったが昨年同様4班体制で行う。
- 座学は8回、フィールド12回行う。フィールドは陶史の森、築水の森、葦毛湿原、小幡緑地、海上の森、段戸裏谷、森林公園、木曽福島城山、愛知県緑化センター、勅使池、海上の森、小幡緑地などを予定している。
- 昨年同様キャリアコースとの合同懇親会を8月に行う。
- 以前より座学の回数について議論があるのでこれを継続する。
- 次年度の新入会員の増加を図るための検討を行う。

キャリアコース

- ◇実施日 第2・4月曜日
- ◇担当 2名
- ◇人数 21名
- ◇目標 お互いに学び合い知識を深める。
- ◇実施事項

- フィールド15回(座学2回含む)、天白公園観察会6回(下見も含む)、基礎科講座『冬の森の観察』を、築水の森にて4回(下見、リハーサルも含む)実施する。
 - 4月 名城公園、竜吟の森
 - 5月 天白公園観察会、各務野自然遺産の森
 - 6月 陶史の森、小幡緑地
 - 7月 天白公園観察会、伊吹山
 - 8月 合同講座
 - 9月 木崎海岸、海上の森
 - 10月 天白公園観察会、城山

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 6名

◇内容

- 森林整備活動への助成金に加え、今まで果たせていない人材育成事業に助成金が受けられるよう働きかける。また、会員の自然保護活動の実態を調査/整理し、当学園の人材育成事業の実績を整理する。
- JA名古屋等の助成金事業の可能性のある団体には、できるだけ定期的に訪問し話をつなぐ。
- 小学校の総合学習授業に手を挙げ、子供が自然と触れ合う楽しさを体験する機会を作る。

交流部

◇担当 4名

◇年間目標

- OB会員の活性化、親睦を目的とした企画を考案し実施する。
- クラブが安全、健全に実施されるよう活動を把握し助言する。

◇実施内容

- OB旅行を企画実施する。
- クラブ長会議を開催する。(7月中旬)
- 新たなクラブ設立を呼びかけ、クラブを増やす。

◇各クラブの活動計画

「野鳥クラブ」

○クラブ長 石原 哲男(10期) 登録人員(32名) 会費1,000円/年

○活動方針

- 探鳥会を年に四回開催を計画すると共に、懇親会を合せて計画し親睦・交流を進める。
- 野鳥観察への興味と好奇心を刺激するための「素人向け講座・座学」を別途企画する。
- 探鳥会には適宜案内人を依頼する。
- 秋の学園祭にクラブとして出展する、そのための準備を夏ころから始める。

○活動予定

■5/14「海上の森」 ■8月野鳥講座「座学」 ■12月「勅使池」
■1月「岡崎公園」 ■3月「名城公園」

「写真クラブ」

○クラブ長 嶋田 茂雄(9期) 登録人員(64名) 会費1,000円

○活動方針

- 自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- 活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

○活動予定

■4/19「東谷山フルーツパーク」 ■5/2「東三河ふるさと公園」 ■5/16「初歩の写真教室」
■5/30「東山動植物公園」 ■6/21「パソコン操作」 ■7/26「入笠山」
■10/11「東山植物園」 ■11/16「学園祭」 ■2/7「掛川・花鳥園」

「自然体験クラブ」

○クラブ長 長田 孝義(12期) 登録人員(52名) 会費1,000円

○活動方針・目標

- 広く、浅く、楽しく、自然を五感で感じることを目指す。
- 5回の行事とし、執行部が企画立案するが魅力的な企画が提案されれば差し替える。
- 基本的な実施日を第3木曜日とするが場合によっては変更する。

○活動予定

- 4/20 総会と愛知県陶磁美術館で作陶教室 ■6/5 恵那のササユリと野草園・酒蔵を見学
- 9/21 西村自然農園で協同料理 ■11/16 近江八幡の船遊びと街並見学
- 2/15 東山植物園で早春を感じる、

「地質クラブ」

○クラブ長 福岡 潔（8期） 登録人員（69名） 会費1,000円

○活動方針

- 身近な自然の成り立ちを観察する。

○活動予定

- 6月末「名大博物館 ノジュールの観察と成因」 ■10月、1月、3月の計4回予定。

「植物クラブ」

○クラブ長 梅本 和泰（12期） 登録人員（65名） 会費1,000円

○活動方針・目標

- 「とにかく楽しく、少し知的な好奇心をくすぐる観察会」を企画する。

○活動予定

- 5月「山本ハナノキ湿地」 ■6月「天生湿原」 ■7月「豊田自然観察の森」
- 8月「伊吹山」 ■9月「木曾福島城山」 ■10月「海上の森」 ■11/16「学園祭」
- 3月「東山植物園・総会」

「植物アートクラブ」

○クラブ長 加藤 恭子（11期） 登録人員13名 会費2,000円

○活動方針・目標

- 絵を描くことに基礎はありません、絵を描きたいという気持ちが基礎です。従って描いた絵の評価は自分自身でしか出来ません、完成した絵は、毎日見ていろいろのことを考え、感じて楽しむことです。

○活動計画

- 植物の特徴をとらえ、それを描くことにより表現の楽しさを知る。
- 月毎の課題に沿って作品を仕上げる。
- 全員の作品を鑑賞し、講師の講評・助言を通し作品の質を高め、また親睦を図る。

○活動予定

- 4月「どんな植物画が描きたいか」 ■5月「野外でスケッチ」
- 6月「植物画を描くのに使う用具」 ■7月「絵とは」 ■8月「葉の描き方」
- 9月「茎、枝の描き方」 ■10月「透明感を出す」 ■11月「質感を描き分ける」
- 12月「軽さの表現」 ■1月「薄さ、厚さを描き分ける」 ■2月「画面を引き締める」
- 3月「発表会・総会」

「ふふふ キラキラクラブ」

○クラブ長 清水 修（7期） 登録人員（55名） 会費1,000円

○活動方針・目標

- 活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

○活動予定

- 7月初旬「六華苑散策（桑名市）と焼蛤を食す」 ■11月下旬「歴史の町散策」
- 2月下旬「早春の里山散策」

「自然句詠クラブ」

○クラブ長 石橋 信義（9期生） 登録人員（21名） 会費1,000円

○活動方針・目標

- 自然を愛（め）で、その感動を575（俳句）に表現し楽しむ。
- メンバー同士で和気藹々と交流し親睦する。

○活動予定

- 月1回（月末）、句を持ち寄り句会を実施する（互いに講評し合う）。
- 句会実施日に終了後、希望者で反省懇親会を実施する。

- 句会のうち、年4回（春夏秋冬）吟行（現地に赴き作句し句会を実施）を行う。
- 1年のまとめとして句集を編集する。
- 東海自然学園の学園祭に展示する。

「湿地クラブ」

- クラブ長 加藤 樽鋼（10期生） 登録人員（41名） 会費1,000円
- 活動目標
 - 「海上の森」の湿地定点観察会（湿地動植物および昆虫）
 - その他観察会（珍しい湿地植物の観察）
- 活動予定
 - 4/3「海上の森」 ■5/29「大狭湿地」 ■6/27「海上の森」 ■7/29「池河内湿原」
 - 8月「御池沼沢植物群落」 ■9月「海上の森」 ■10月「矢並湿地」 ■11月「海上の森」

「ハイキングクラブ」

- クラブ長 栗田 博之（13期生）
- 平成29年7月より活動の予定

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

- ◇担当 3名
- ◇人数 34名
- ◇年間目標

第4次3カ年計画の3年目にあたり、「植生豊かな森づくりを目指す森林整備活動、学習、人材育成」を目標とし、今年度はB地区を中心に整備活動を行う。

- ◇活動日 第2・第4木曜日
- ◇活動区域 森林公園植物園内（8.2ha）のB地区
- ◇年間目標

- ① 安全作業の徹底。（安全作業マニュアルの遵守。）
- ② 整備予定地区の植生調査、除伐作業、希少植物保護。
- ③ 整備技術の向上・安全知識の学習など森林整備人材の育成を目指す。
- ④ 観察会・懇親会等を開催し、科員の親睦を図る。

■瀬戸里山整備科

- ◇担当 3名
- ◇人数 20名（新入会者は0、退会者3名、入会者2名）
- ◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日
- ◇活動場所 瀬戸市曾野町
- ◇活動内容

- ① 活動は、安全第一を優先する。
- ② イオン環境財団の助成金を活用して、整備作業の大きな支障となっている、コナラ等の枯木の除伐を行う（現地講座方式）
- ③ 安全作業のために「作業安全マニュアル」の整備および活動日の読み合わせ等を行う。
- ④ 除伐・ロープワークの学習など作業技術の向上を図る・観察会

⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし

平成29年度活動予算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

特定非営利活動法人 東海自然学園

(単位:円)

科目	金額		注釈
I 経常収益			
1. 受取会費			正会員 30名 利用会員406名
正会員受取会費	150,000		
利用会員受取会費	1,218,000	1,368,000	
2. 受取寄付金			
受け取り寄付金		350,000	
3. 受取助成金収入			
受け取り助成金		370,000	
4. 事業収入			
自然活動リーダー養成講座授業収益	9,619,000		
普及啓発事業収益	350,000		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	0		
自然活環境保全事業収益	0		
その他事業収益		9,969,000	
5. その他収益			
雑収入	0		
受取利息	1,000	1,000	
経常収益計			12,058,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,550,000		
通勤手当	150,000		
法定福利費	600,000		
人件費計	4,300,000		
(2) その他経費			
謝礼金	1,600,000		
教材費	300,000		
会場費	450,000		
広報費	600,000		
リーフレット代	370,000		
講師交通費	100,000		
スタッフ交通費	1,700,000		
消耗品費	600,000		
雑費	20,000		
家賃	600,000		
接待交際費	20,000		
光熱費	130,000		
コピー維持費	200,000		
保険料	400,000		
通信運搬費	700,000		
諸会費	10,000		
研修費	10,000		
その他経費計	7,810,000		
事業費計		12,110,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	170,000		
人件費計	170,000		
(2) その他の経費			
セキュリティ料	106,000		
旅費交通費	0		
事務用品費	10,000		
租税公課	200,000		
支払手数料	80,000		
雑費	10,000		
その他経費計	406,000		
管理費計		576,000	
経常費用計			12,686,000
当期経常増減額			▲ 628,000
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			▲ 628,000
前期繰越正味財産額			7,720,941
次期繰越正味財産額			7,092,941

<第5号議案>

平成29年度役員選任

平成29年度の役員として下記の方を選任致します。

平成29年度役員

- ・ 代表理事 横井 進
- ・ 筆頭理事 大熊 琢巳
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 古田 雅子
- ・ 理事 浅井 留美子
- ・ 理事 小田 光生
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 水野 茂明
- ・ 理事 伊藤 準二
- ・ 理事 福岡 潔
- ・ 理事 吉田 誠司
- ・ 監事 藤田 昌大

その他報告事項

上記役員以外の平成29年度正会員

- ◆ 朝田 泰（七期生）
- ◆ 佐合 ひとみ（七期生）
- ◆ 浅井 昭枝（八期生）
- ◆ 井土 清司（九期生）
- ◆ 高島 裕美子（九期生）
- ◆ 石川 明博（十期生）
- ◆ 札野 眞理子（十期生）
- ◆ 藤原 純子（十期生）
- ◆ 森下 保男（十期生）
- ◆ 岩田 敏子（十一期生）
- ◆ 胡内 友文（十一期生）
- ◆ 近藤 典子（十一期生）
- ◆ 中野 治男（十一期生）
- ◆ 吉川 卷子（十一期生）
- ◆ 泉 雄（十二期生）
- ◆ 金井 幸孝（十二期生）
- ◆ 堀部 和裕（十二期生）
- ◆ 森 静枝（十二期生）